

東北地方 1 か月予報

(9 月 1 0 日から 1 0 月 9 日までの天候見通し)

平成 1 7 年 9 月 9 日
仙台管区気象台発表

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

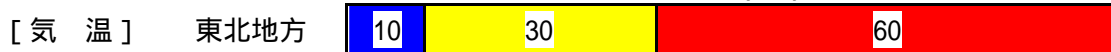
向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

期間の前半は高気圧の影響で平年に比べ晴れの日が多いでしょう。後半は天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。特に期間の前半は平年に比べ気温の高い状態が続き残暑が厳しい見込みです。

向こう 1 か月の平均気温は高い、降水量は平年並か少ない、日照時間は平年並か多いでしょう。

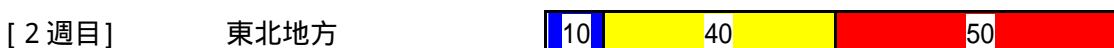
週別の気温は、1 週目は高い、2 週目は高い、3 ~ 4 週目は平年並か高いでしょう。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >



低い (少ない) 平年並 高い (多い)

< 気温経過の各階級の確率 (%) >



低い 平年並 高い

< 予報の対象期間 >

1 か月 : 9 月 1 0 日 (土) ~ 1 0 月 9 日 (日)
1 週目 : 9 月 1 0 日 (土) ~ 9 月 1 6 日 (金)
2 週目 : 9 月 1 7 日 (土) ~ 9 月 2 3 日 (金)
3 ~ 4 週目 : 9 月 2 4 日 (土) ~ 1 0 月 7 日 (金)

< 次回発表予定等 >

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 9 月 1 6 日
3 か月予報 : 9 月 2 2 日 (木) 1 4 時 0 0 分
寒候期予報 : 9 月 2 2 日 (木) 1 4 時 0 0 分

東北地方 1か月予報解説資料

平成 17 年 9 月 9 日 仙台管区气象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月（9 月 10 日～10 月 9 日）:

期間の前半は高気圧の影響で平年に比べ晴れの日が多いでしょう。後半は天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。特に期間の前半は平年に比べ気温の高い状態が続き残暑が厳しい見込みです。

平均気温は高いでしょう。

1 週目（9 月 10 日～9 月 16 日）:

東北南部は、明後日（11 日）は気圧の谷の影響で雨の所がありますが、その後は、高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。東北北部は、期間の始めと終わりは、高気圧に覆われて概ね晴れますが、期間の中頃は、気圧の谷の影響で曇る見込みです。

平均気温は高いでしょう。

2 週目（9 月 17 日～9 月 23 日）:

高気圧に覆われ平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3～4 週目（9 月 24 日～10 月 7 日）:

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

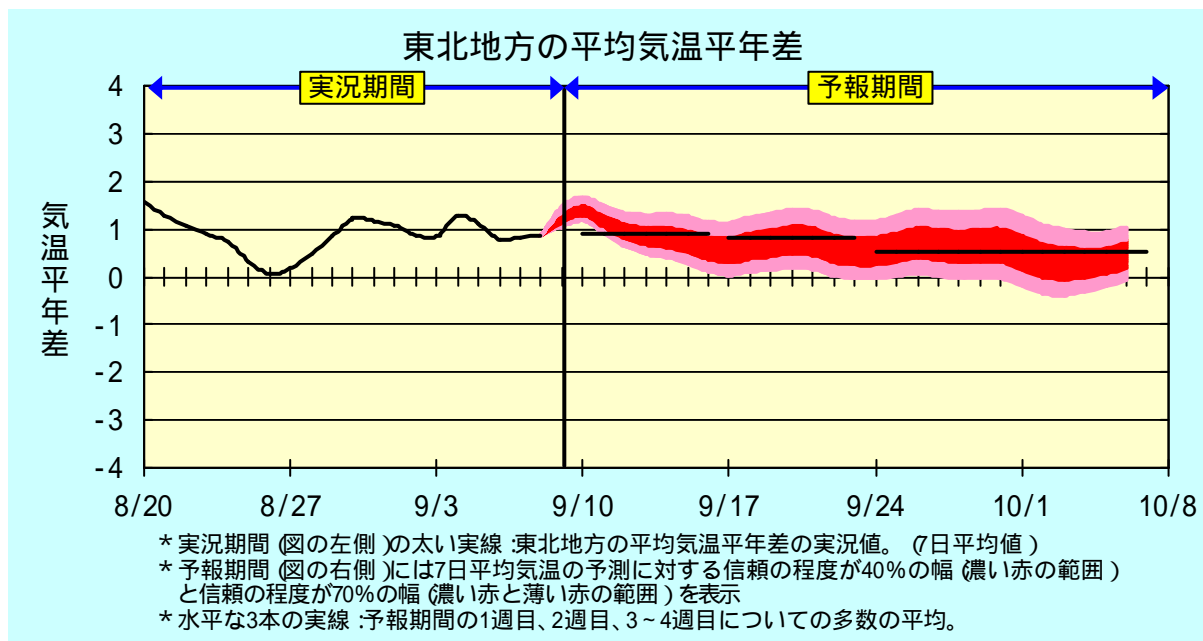
平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北日本海側	13.5 日	3.2 日	3.5 日	6.8 日
東北太平洋側	13.0 日	2.8 日	3.2 日	7.0 日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1 週目、2 週目、3～4 週目共に「高い」と予測している。予報はその他の資料から、3～4 週目を「平年並か高い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

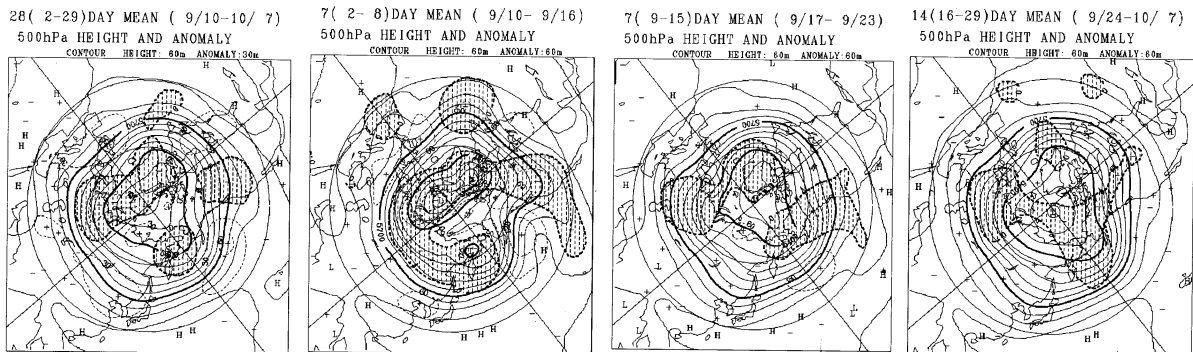


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、日本付近は東西に広く正偏差で、正偏差の中心は中国東北区。

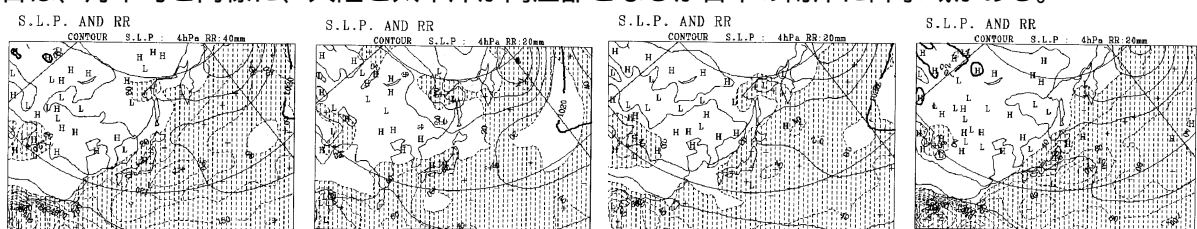
1 週目は、日本の北にはカムチャツカ半島からシベリア、バイカル湖の北をとおり極まで続く負偏差があるが、日本付近の中緯度から南は広く正偏差。2 週目は、極東域全体が弱い正偏差で、正偏差の中心は日付変更線付近。シベリア東部に分流が見られるが、日本への影響は小さい。3～4 週目も、極東域全体は正偏差だが、負偏差が日付変更線付近にみられる。



地上気圧と降水量：

月平均では、大陸と太平洋に高圧部。日本付近は高圧部には含まれる。日本の南岸沖には降水域がある。

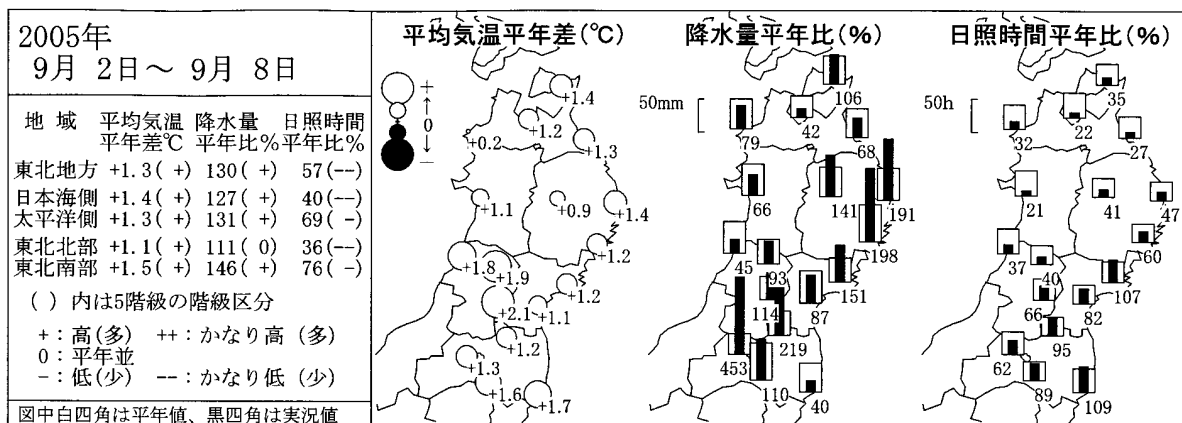
1 週目は、沿海州の北部とカムチャツカ半島、日付変更線付近にかけて低圧部だが、日本付近は高気圧の勢力下。2 週目は、大陸と太平洋で高圧部。日本付近にかかる降水域は弱い。3～4 週目は、月平均と同様に、大陸と太平洋が高圧部となるが日本の南岸に降水域がある。



4. 最近 1 週間（9 月 2 日～9 月 8 日）の天候の経過

この期間、前線や台風の影響で雨や曇りの日が多かった。2～5日には日本海を南下した前線が東北地方にかかり停滞したため、東北南部を中心に雨のところが多かった。6～7日は日本海まで北上して来た台風第14号の影響で前線は活発化し東北北部を中心に雨が続いた。台風通過後の8日は東北日本海側北部で雨が残ったが、高気圧が近づき東北太平洋側では晴れた。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温）

	気 温 ()	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	気 温()		
				1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
大船渡	17.7	201.3	126.1	19.7	18.5	16.7
新庄	17.1	146.4	109.6	19.6	18.1	15.8
若松	18.0	120.5	117.2	20.4	19.0	16.7
深浦	17.4	162.1	152.5	19.4	18.3	16.4
青森	17.0	108.7	160.6	19.3	18.0	15.9
むつ	16.4	156.7	152.2	18.4	17.2	15.3
八戸	16.9	137.7	149.4	19.0	17.9	15.8
秋田	18.0	160.8	154.5	20.3	19.0	16.8
盛岡	16.4	131.9	132.5	18.8	17.4	15.1
宮古	17.0	208.7	131.0	18.9	17.9	16.0
酒田	18.8	171.1	146.8	20.9	19.7	17.7
山形	17.8	117.4	123.6	20.2	18.8	16.5
仙台	18.8	193.9	124.9	20.7	19.5	17.8
石巻	18.3	153.6	136.4	20.3	19.1	17.2
福島	19.0	159.1	115.8	21.1	19.8	17.9
白河	17.3	191.0	112.2	19.5	18.1	16.2
小名浜	19.8	202.1	130.6	21.7	20.5	18.8

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971～2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.2	85～ 110	92～ 108
東北日本海側	-0.5～+0.3	88～ 113	93～ 108
東北太平洋側	-0.4～+0.1	86～ 110	92～ 110

（３）この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.7～+0.5	-0.6～+0.4	-0.6～+0.3
東北日本海側	-0.8～+0.5	-0.7～+0.4	-0.6～+0.4
東北太平洋側	-0.6～+0.5	-0.6～+0.5	-0.5～+0.3

< 参考資料（利用上の注意） >

- （１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分（それぞれ 33%）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。
- （２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 10%以下や 60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30%、40%）の確率しか付けられません。
- （３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。